



総務省 行政管理局 管理官 (政府情報システム基盤)

## 奥田 直彦

Naohiko Okuda

- 平成 6年 4月 総務庁採用
- 平成 13年 4月 総務省統計センター管理部管理課 統計専門官
- 平成 15年 4月 独立行政法人統計センター総務部 経営企画室課長代理
- 平成 16年 7月 総務省行政管理局副管理官
- 平成 17年 4月 同 行政管理局行政情報システム企画課 課長補佐
- 平成 19年 7月 同 統計局統計情報システム課課長補佐 併任 行政管理局行政情報システム 企画課
- 平成 20年 4月 同 統計局総務課課長補佐
- 平成 22年 7月 同 統計局総務課調査官
- 平成 25年 4月 同 統計局統計情報システム課長事務代理
- 平成 26年 7月 同 統計局統計情報システム課長
- 平成 27年 7月 同 行政管理局管理官

### 国の行政の業務改革と電子政府の推進

政府は「政策課題の困難化、業務量増大」「国民の信頼確保、ニーズ対応」「人的資源制約、人材確保問題」「女性・若者活躍、ワークライフバランスの要請」などさまざまな課題を抱えています。これらに対応するためには、行政の「クオリティ」を高める改革の取組が求められています。つまり、「業務のプロセス」「働き方」といった『器の中身』の改革を進めることが重要となっています。

このため、業務プロセス分析に基づいた業務の見直し、国民の満足度を重視した指標 (KPI) に

基づいた改革といった、ICTを徹底活用した業務プロセス改革を開始しています。

また、電子政府の推進については、「世界最先端IT国家創造宣言」において、ITを活用した公共サービスがワンストップで受けられる社会の実現のため、利便性の高い電子行政サービスの提供、政府情報システムの改革、政府におけるITガバナンスの強化が言及されています。これを受けて、「平成30年度までに情報システム半減」「平成33年度までを目途に運用コスト3割減」「平成27年度までに電子決裁率を60%に向上」「平成33年度までに行政手続きのオンライン利用率を70%以上に向上」といったKPI (定量的効果指標) が掲げられ、その達成に向けた電子政府の

取組みに大きな役割を果たしています。

### ジェネラリストのスペシャリスト

私は、約20年前、総務庁に採用された際に採用担当をされていた幹部の方から、「総務庁 (現在は総務省) の職員として、ジェネラリストのスペシャリストを目指さない。」と話をされました。当時は、政府全体を広く浅く見渡していけば良いのではないかと考えて、公務員生活をスタートしました。それから20年、電子政府、統計行政、内閣広報、賞勲行政、独立行政法人の設置など様々な業務を行ってきた今、当時の幹部の言葉は、私が考えていたような簡単なもので

### Project 霞ヶ関クラウド –セキュリティ確保とワークスタイルの変革–

いまや、ICTが活用されていない業務はありません。政府においても、1000以上のシステムを用いて業務を行っています。これらのシステムはこれまで各府省が別々に整備・運用していました。

国民の利便性向上や行政の効率化、セキュリティ強化の観点から、政府情報システムの共通基盤が必要不可欠となり、「政府共通プラットフォーム」、いわゆる霞ヶ関クラウドを平成25年3月から運用しています。霞ヶ関クラウドは、個人情報等の機微度の高い情報を扱うシステムも活

用しているため、仮想PCなどの最新技術を駆使し、セキュリティの強化を図っています。

また、自宅等から職場のシステムに接続できる環境 (リモートアクセス環境) も提供し、ワークスタイル変革による業務の効率化や大規模災害時の業務継続性の確保などに貢献しています。さらに、業務についても不断の見直しを行い、データの共有化や手続の簡素化などを進め、さらに質の高い行政サービスの提供を目指しています。



## 変革! 改革! –業務も、そして働き方も–

ではなく「業務を淡々とこなすだけではなく、経験したあらゆる分野においてスペシャリストとならなければならない。そうでなければ、政府全体を見渡すジェネラリストのスペシャリストにならない。」ということだったのだということを実感しています。このように様々な業務を経験し、公務員という職業の醍醐味を味わうことができるのも、総務省の大きな魅力の一つではないでしょうか。

### 来たれ総務省へ

国家公務員を目指す皆さんは、今、行政に携わることへの憧れや希望に満ち溢れていることだと思います。そして、その半面、国家公務員として自分は何をやるのか、どんな力を発揮できるのか、不安もいっぱいだと思います。

けれども、それでいいのです。それが当たり前なのです。最初から十分な知識や力があつた人

などいないのです。皆さんの公務員としての成長は、この総務省が、総務省の幅広い行政が、そして、総務省の先輩・仲間達が、これからじっくりと、そして確実に育ててくれます。

この国の未来を形にしようとする意欲と気概を持ち、これからの行政経験を通じた研鑽と自分自身の成長を想像し、心躍らせている方。私たち総務省は、そんなやる気と意欲にあふれた方々を心よりお待ちしております。

一緒に、この国の未来を変えてみませんか。



### 若手職員の声 総務省 行政管理局 管理官 (業務・システム改革総括) 付 畑谷 京太郎 (平成27年入省)

私は行政管理局の業務・システム改革担当として、電子政府、特に各府省の情報システムに関する様々な施策に携わっています。「業務・システム」という名のとおり、業務改革には今やシステムが不可欠です。しかし、単にシステムさえ作れば良い訳ではありません。最適なシステムの構築には、私たちの現在の業務フローの正確な把握と不断の見直しを反映させる必要があります。それが実現できて初めてシステムによる業務効率化が達成されるのです。このようなシステム改革を通して各府省の非効率性そのものも改善できうる今の仕事には大きなやりがいを感じています。

管理局でも職員の気づきを改善に結びつける取組をしており、入省1年目でも自由に提言することが可能です。奥田管理官もワークライフバランスを実践され、職場の働き方を率先して変えようとしていらっしゃいます。改革意識の高い上司や同僚のいる環境で、今後も多くを学んでいきたいと考えています。



ワークライフバランスを実践。息子と船釣り初体験



スキーは毎年恒例に